

日本人の食事摂取基準（2015 年版） 正誤情報
 ～平成 28 年 3 月 1 日修正分～

該当箇所	誤	正
p.247 22 行目	心房性ナトリウム利用ペプチド	心房性ナトリウム利尿ペプチド
p.349 表 2 妊婦の 目安量の設定状 況 ビタミン K の妊婦の目安量/ 日	(150mg) ¹	(150 μ g) ¹
p.351 表 4 授乳婦 の目安量の設定 状況 ビタミン K の妊婦の目安 量/日	(150mg) ¹	(150 μ g) ¹
p.415 7 行目	コレステロール摂取量が 400mg/日 までの範囲では、	コレステロール摂取量が 400mg/1,000kcal までの範囲では、

日本人の食事摂取基準（2015 年版） 正誤情報
～平成 27 年 4 月 27 日修正分～

該当箇所	誤	正
p.14 3 行目	妊娠後期（28 週 0 日）	妊娠後期（28 週 0 日～）
p.64 表 5	$55.6 \times W - 1397.4 \times H/100 + 148$	$55.6 \times W + 1,397.4 \times H/100 + 148$
p.158 37 行目	一方、目標量の上の値は	一方、目標量の下の値は

日本人の食事摂取基準（2015 年版） 正誤情報
～平成 26 年 12 月 3 日修正分～

該当箇所	誤	正
p.65 7 行目	表 5	参考表(p. 73)
p.71 16 行目	表 8	表 10
p.227 33 行目	50mg/日	45mg/日
p.269 4 行目	分子量	原子量
p.416 16、31 行目	図 4	図 3
p.416 34 行目	示している ¹¹⁾ 。	示している（図 4） ¹¹⁾ 。
p.422 図 2	インスリン拮抗性	インスリン抵抗性

日本人の食事摂取基準（2015 年版） 正誤情報
～平成 26 年 8 月 19 日修正分～

該当箇所	誤	正
p.2 11 行目	(追加)	$BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)})^2$
p.34 図 11	〔食事摂取状況のアセスメント〕 〔食事改善の計画と実施〕 〈エネルギー摂取の過不足の評価〉 BMI*又は体重変化量を用いて評価 *成人の場合 ⇒ BMI が目標とする範囲内に留まること、又はその方向に体重が改善することを目的に立案 〈栄養素の摂取不足の評価〉 推定平均必要量、推奨量を用いて、栄養素の摂取不足の可能性とその確率を推定。目安量と同等か、それ以上かで、不足していないことを確認。 ⇒ 不足しない十分な量を維持すること、又はその量に近づくことを目的に立案 〈栄養素の過剰摂取の評価〉 耐容上限量を用いて、栄養素の過剰摂取の可能性の有無を推定 ⇒ 耐容上限量未満にすることを目的に立案 〈生活習慣病の予防を目的とした評価〉 目標量を用いて、生活習慣病の予防の観点から評価 ⇒ 目標量（又は範囲内）に達することを目的に立案 図 11 食事改善（個人）を目的とした食事摂取基準の活用による食事改善の計画と実施	
p.36 図 13	摂取量と必要量との相関関係、必要量の分布が正規分布であるか、摂取量の分散と必要量の分散のどちらが大きいか、その特徴を理解 統計学的手法（確率法・カットポイント法）を理解 摂取量がどう分布かを考慮することの重要性を理解 BMI*の分布 *成人の場合 集団の摂取量の分布 測定誤差があることを理解 食事摂取基準の各指標で示されている値 〔アセスメント〕 〈エネルギー摂取の過不足の評価〉 BMI の分布が目標とする範囲外にある人の割合を算出 〈栄養素の摂取不足の評価〉 摂取量の分布から、推定平均必要量を下回る人の割合を算出。摂取量の中央値と目安量を比較 〈栄養素の過剰摂取の評価〉 摂取量の分布から、耐容上限量を上回る人の割合を算出 〈生活習慣病の予防を目的とした評価〉 摂取量の分布から、目標量の範囲を逸脱する人の割合を算出 図 13 食事改善（集団）を目的とした食事摂取基準の活用による食事摂取状況のアセスメント	
p.50 図 4 脚注	男性 16,2092 人、女性 19,1330 人	男性 162,092 人、女性 191,330 人
p.55 35 行目	ΔW：エネルギー	ΔE：エネルギー
p.65 10 行目	基礎代謝基準値は、わが国で測定された 12 の研究～	基礎代謝基準値は、わが国で測定された 13 の研究～
p.66 図 11	図 11 日本人の成人における基礎代謝量の報告例（12 の研究）	図 11 日本人の成人における基礎代謝量の報告例（13 の研究）

p.68

表 8

表 8 高齢者に二重標識水法を用いて身体活動レベルを報告した例（平均±標準偏差）					
文献番号	対象者特性	年齢（歳）	性別（人数）	BMI (kg/m ²)	身体活動レベル
122)	健康人	73	男性 (3) 女性 (9)	25±3	1.73±0.25
225)	健康人	74±6	男性 (14) 女性 (18)	22.5±2.5	1.66±0.24
226)	自立生活者	72.8±6.1	男性 (8)	22.4±2.5	1.4±0.1
227)	退職者	74.0±4.4	女性 (10)	24.1±2.8	1.59±0.19
228)	健康人	73±3	女性 (10)	記載なし	1.80±0.19
229)	健康人	73.4±4.1	男性 (19)	記載なし	1.71±0.32
230)	黒人	74.6±3.2	女性 (67)	28.6±5.9	1.69±0.24
	白人	74.6±3.2	女性 (77)	26.2±5.3	1.65±0.21
	黒人	74.8±2.9	男性 (72)	27.1±4.5	1.71±0.24
	白人	75.1±3.2	男性 (72)	27.6±4.2	1.74±0.22
231)	比較的に健康な人	78	男性 (2) 女性 (9)	24.3±2.6	1.74±0.25
232)	在宅	82±3*	男性 (17)	24.8±3.8	1.6±0.2
233)	自立歩行可能で疾患のない人	74.7±6.5	男性 (12) 女性 (44)	25.8±4.2	1.72 (1.63~1.92)
235)	230) の集団の一部を 8 年後に測定	74.7	男性 (47)	27.0±4.3	1.77±0.23
		82.2		27.1±4.8	1.68±0.21
		74.5	女性 (40)	28.4±4.5	1.68±0.19
		82.0		28.0±4.3	1.67±0.31

平均±標準偏差、又は、25~74 パーセンタイル。

*年齢と BMI は、17±6（人）の合計 23 人の値。

p.70

表 10

表 10 成長に伴う組織増加分のエネルギー（エネルギー蓄積量）								
年齢等	男 性				女 性			
	A. 参照体重 (kg)	B. 体重増加量 (kg/年)	組織増加分		A. 参照体重 (kg)	B. 体重増加量 (kg/年)	組織増加分	
			C. エネルギー密度 (kcal/g)	D. エネルギー蓄積量 (kcal/日)			C. エネルギー密度 (kcal/g)	D. エネルギー蓄積量 (kcal/日)
0~5(月)	6.3	9.4	4.4	115	5.9	8.4	5.0	115
6~8(月)	8.4	4.2	1.5	15	7.8	3.7	1.8	20
9~11(月)	9.1	2.5	2.7	20	8.4	2.4	2.3	15
1~2(歳)	11.5	2.1	3.5	20	11.0	2.2	2.4	15
3~5(歳)	16.5	2.1	1.5	10	16.1	2.2	2.0	10
6~7(歳)	22.2	2.6	2.1	15	21.9	2.5	2.8	20
8~9(歳)	28.0	3.4	2.5	25	27.4	3.6	3.2	30
10~11(歳)	35.6	4.6	3.0	40	36.3	4.5	2.6	30
12~14(歳)	49.0	4.5	1.5	20	47.5	3.0	3.0	25
15~17(歳)	59.7	2.0	1.9	10	51.9	0.6	4.7	10

体重増加量 (B) は、比例配分的な考え方により、参照体重 (A) から以下のようにして計算した。

例：9~11 か月の女性における体重増加量 (kg/年)

$$X = [(9 \sim 11 \text{ か月 (10.5 か月時) の参照体重}) - (6 \sim 8 \text{ か月 (7.5 か月時) の参照体重})] / [0.875 \text{ (歳)} - 0.625 \text{ (歳)}] + [(1 \sim 2 \text{ 歳の参照体重}) - (9 \sim 11 \text{ か月の参照体重})] / [2 \text{ (歳)} - 0.875 \text{ (歳)}]$$

体重増加量 = X/2

$$= [(8.4 - 7.8) / 0.25 + (11.0 - 8.4) / 1.125] / 2$$
$$\approx 2.4$$

組織増加分のエネルギー密度 (C) は、アメリカ・カナダの食事摂取基準⁽⁸¹⁾より計算。

組織増加分のエネルギー蓄積量 (D) は、組織増加量 (B) と組織増加分のエネルギー密度 (C) の積として求めた。

例：9~11 か月の女性における組織増加分のエネルギー (kcal/日)

$$= [(2.4 \text{ (kg/年)} \times 1,000 / 365 \text{ 日})] \times 2.3 \text{ (kcal/g)}$$
$$= 14.8$$
$$\approx 15$$

p.90

32 行目

2-2. 推定平均必要量、推奨量、 目安 量の設定方法	2-2. 推定平均必要量、推奨量の設定方法
------------------------------------	-----------------------

p.95 6 行目 (数式)	体カリウム蓄積量	体カリウム増加量
p.101 表 5 脚注	¹ 参考文献 12)より引用。	¹ 参考文献 13)より引用。
p.141 表中	妊婦 (付加量) 授乳婦 (付加量)	妊婦 授乳婦
p.154 1、6、7 行目	生活習慣病の発症予防並びに重症化 予防	生活習慣病の発症予防及び重症化予 防
p.166 28 行目	550～600 μ g/RAE 日	550～650 μ g/RAE 日
p.166 31 行目	800～850 μ g/RAE 日	800～900 μ g/RAE 日
p.170 17 行目	腸管や肝臓でカルシウムとリンの吸 収を促進し	腸管や腎臓でカルシウムとリンの吸 収を促進し
p.172 37 行目	約 10g/日	約 10 μ g/日
p.174 19 行目	母乳中のビタミン濃度 3.0 μ g/L ⁵⁸⁾	母乳中のビタミン濃度 3.0 μ g/L ⁵⁹⁾
p.199 1 行目	2. 欠乏症の回避	2. 欠乏の回避
p.199 図 5 脚注	文献 19) の表 4 を図に改変した。	文献 13) の表 4 を図に改変した。
p.211 8 行目	スレオニン	トレオニン
p.243 脚注	1 妊娠を計画している女性、又は、 妊娠の可能性が～	1 妊娠を計画している女性、または、 妊娠の可能性が～
p.243 脚注	2 サプリメントや強化食品に含まれ るプテロイルモノグルタミン酸の 量。	2 サプリメントや強化食品に含まれ るプテロイルモノグルタミン酸の量 である。
p.246 脚注	～抗酸化作用効果から算定した。	～抗酸化作用効果から算定。
p.247 26 行目	2-1. 要求量を決めるために考慮す べき事項 (推定平均必要量、推奨量)	2-1. 要求量を決めるために考慮す べき事項

p.261 22 行目	5. 今後への課題	5. 今後の課題
p.319 21 行目	22 μ g	2 μ g
p.337 6~11 (月) 目安量	0.4	0.3
p.343 32、35 行目	生活習慣病の発症予防並びに重症化予防	生活習慣病の発症予防及び重症化予防
p.347 7 行目 (数式)	体カリウム蓄積量	体カリウム増加量
p.361 銅 目安量 6~11 (月)	0.4	0.3
p.397 13 行目	Ⅲ度 (160/110mmHg 以上) に分類される。	Ⅲ度 (180/110mmHg 以上) に分類される。
p.412 1 行目	脂質異常症と特に関連の深いエネルギー・栄養素	特に関連の深いエネルギー・栄養素
p.417 12 行目	メタ・アナリシス 24)	メタ・アナリシス 17)
p.417 15 行目	かった 25)。	かった 24)。

日本人の食事摂取基準（2015 年版） 正誤情報
～平成 26 年 4 月 18 日修正分～

該当箇所	誤	正
p.2 図 2 下から 2 行目	糖質	糖類
p.167 21 行目	55.1	56.3
p.167 23 行目	77.1	78.9
p.178 12 行目	3.68mg/日、女兒が 3.71mg/日となるため、3.5mg/日を目安量とした。	3.85mg/日、女兒が 3.80mg/日となるため、4.0mg/日を目安量とした。
p.243 15・17 歳 推定平均必要量（男女とも）	220	210
p.260 19 行目	131	133
p.283 70 歳以上 女性 推定平均必要量	550	500
p.337 6・11 か月 目安量（男女とも）	0.4	0.3
p.367 表 15 鉄 男子 推定平均必要量	8.0	8.5
p.368 表 17 葉酸 推定平均必要量（男女とも）	220	210
p.374 35 行目	レジスタント運動	レジスタンス運動
p.388 表 6 カルシウム 女性 推定平均必要量	550	500